

第九三回日本医史学会

第二〇回日本歯科医史学会

合同總會演題目次

特別講演

韓国歯科医史（韓国歯科医療の開化と発展の過程）……………奇昌徳（1）

会長講演

日本歯科医史学会二〇周年の歩み……………谷津三雄（6）

一般口演

1 中国医学と道教（Ⅱ 韓国医書について）……………吉元昭治（13）

2 小野蘭山・蕙畝の日記にみる医学館の本草講書と薬品会……………遠藤正治（15）

3 曲直瀬玄朔『食性能毒』における『本草綱目』の取捨……………加藤伊都子・真柳誠（17）

4 中国に保存される日本伝統医学文献の孤本……………真柳誠・関信之・肖衍初・森田傳一郎（19）

5 幻に終わった国際連盟の漢方薬研究（第二報）……………津谷喜一郎（22）

6 抜歯後に応用される漢方薬について……………\*藤井佳朗（24）

7 関根家所蔵療治十九方について……………\*西卷明彦・新藤恵久（26）

8 葛根湯と歯痛について……………\*西卷明彦・屋代正幸・小林一日出（27）

9 將軍吉宗をめぐる紀州下りの医薬人……………宗田一（29）

10 『耳囊』に記録された民間療法……………浜田善利（31）

11 群馬県沼田市の石仏と民間信仰について……………\*湯浅高之・藤野珥男・屋代正幸（32）

12 バルベルデ人体構造解剖図説再考……………西大條文一（34）

13 関場不二彦の事蹟（一）……………

——開業初期の病院経営——……………吉田信・島田保久・津田晴美・松木明知（36）

14	Anaesthesia の命名……………	* 中原 泉……………	(38)
15	華岡青洲の麻醉薬通仙散に関する実験的研究……………	松木 明知……………	(40)
16	一井正典とドクトル・ヴァンデンボルグ……………	* 渋谷 敦・松本晉一……………	(42)
17	日本における芸用解剖学の受容……………	寺 畑 喜 朔……………	(44)
18	熱中症予防薬と食塩……………	三 浦 豊 彦……………	(46)
19	わが国における義歯の発達 概要……………	本 山 佐 太 郎……………	(48)
20	伊勢松阪の入目・入歯師……………	新藤恵久・長谷川 弥……………	(50)
21	オーブンループ並びにダブルループクラスプに就いて……………	* 平 田 幹 男……………	(51)
22	東京勸業博覧会の歯科出品物(第二報) 歯磨および歯ブラシについて……………	* 大橋正敬・西山 實……………	(52)
23	「杉山三部書」の研究(その一)―成立について……………	長岡靖彦・中島 史・北村 智・長尾栄一……………	(54)
24	「杉山三部書」の研究(その二)―経穴と補瀉……………	中島 史・北村 智・長岡靖彦・長尾栄一……………	(56)
25	『素問研』について……………	宮 川 浩 也……………	(58)
26	鍼灸経穴名考証の試み―穴名同語の出典と用法……………	岩 井 佑 泉……………	(60)
27	古典にみる砒鍼の臨床的意義について……………	坂本秀治・市川太郎……………	(62)
28	東京歯科医学専門学校臨床歯科学叢書の書誌学……………	* 春日芳彦・森山徳長……………	(64)
29	明治大正期歯科保存学書の比較書誌学的研究……………	* 長谷川正康・森山徳長……………	(65)
30	幻の東京歯科大学へ市川短期大学への構想……………	* 戸 沢 行 夫……………	(67)
31	大日本私立授生會雑誌の歯科的記載……………	落合俊輔・谷津三雄……………	(69)
32	第三高等学校医学部教授・坂田快太郎の留学通信……………	小 田 皓 二……………	(71)
33	帝国女子医専創設者額田豊・晋兄弟の医家系譜……………	中 山 沃……………	(73)
34	練堀町時代の佐藤尚中……………	大 滝 紀 雄……………	(75)
35	竹原地区の先覚者たち―頼春風などについて……………	江 川 義 雄……………	(77)
36	月舟寿桂(幻雲)の医界における交友関係……………	小曾戸 洋・森田傳一郎・水沢利忠……………	(79)
37	幾何学、リベラル・アーツと博物学……………	柴 田 幸 雄……………	(81)

38	府立大阪医科大学は大阪帝国大学医学部へ 齒科学弓倉繁家教授、薬化学世良好太教授……………	中室嘉祐……………(83)
39	明治期御雇外国人医学教師関係法について(第二報)……………	高安伸子……………(85)
40	「自然良能」及び「医へ自然ノ臣僕ナリ」思想の回帰……………	津下健哉……………(87)
41	日本における「変蒸」の変遷について……………	広田擘子……………(89)
42	『頓医抄』巻第二十、口腔疾患に関する考察……………	戸出一郎……………(92)
43	『医心方』と病草紙……………	杉立義一……………(94)
44	『口齒類要』質疑……………	*杉本茂春……………(96)
45	『軌』(義未詳)の解釈……………	*杉本茂春……………(99)
46	囉嚙擊說救療小兒疾病経の紹介……………	大高興……………(101)
47	『紅夷外科宗伝』図版成立へのスクルテタス(Sculleus)の外科書 Anamentarium chirurgiumの影響……………	蒲原宏……………(103)
48	十八世紀オランダの医療界の構造と蘭学……………	石田純郎……………(106)
49	ピエール・フォンシャル著『齒科外科医』手稿中のフォンシャル直筆と 推定される部分……………	高山直秀……………(108)
50	准看制度の歴史……………	長門谷洋治……………(110)
51	米国長老教会婦人宣教師ミス・リードの日本における活動……………	平尾真智子……………(112)
52	外科の守護聖人サン・コームとリュザルシュ村の教会……………	大村敏郎……………(115)
53	近代中国における宣教師女医の活動について……………	三崎裕子……………(117)
54	陸軍看病人の教育について……………	黒澤嘉幸……………(118)
55	ウィルヒョウと精神科医たち……………	梶田昭……………(120)
56	断種法問題―その広がりを見取図―……………	岡田靖雄……………(122)
57	精神外科の隆盛と衰微……………	藤倉一郎……………(124)
58	※中国口腔医学史考々簡介……………	*周大成……………(125)

59	山本忠孝―北京における魯迅の主治医―	泉	彪之助	(126)	
60	医術開業試験と済生学舎	唐	沢信安	(128)	
61	野口英世の医術開業試験	石	原理年	(130)	
62	最初期歯科X線診断学の文献的研究(その二) 機器、フィルム、露出時間等について	*塩津二郎・森山徳長		(132)	
63	旧制・新制東京歯科大学の校地・校舎の変遷について	*山岸東太郎・石川達也		(134)	
64	終戦前後の日本医学会	渋谷	敏・谷津三雄	(136)	
65	前線診療指針について	石橋	肇・谷津三雄	(138)	
66	函館医学校生徒記録	石	崎	達	(140)
67	明治期におけるブライト氏病の受容について	会	田	恵	(141)
68	Hirschberg来日に会いし医師達	奥沢康正・ユルゲン・コバチ		(143)	

発表日時 特別講演および1〜36 平成四年六月五日(金)  
 会長講演および37〜68 六月六日(土)

\*印の演題は日本歯科医史学会で受け付けたものです。